

プレス、溶接、アSEMBリーの社内一貫生産により、高付加価値の自動車部品を製造。売上倍増を目指し、順送ラインの強化やプレス機7台によるロボットラインの新設など設備投資にも積極的に取り組む。

株式会社ニッテツ

社内一貫生産が強み

(株)ニッテツは、広島県内に板金とプレス加工の2工場を持つ金属加工会社。主力はマツダのティア2として自動車部品を製造する庄原工場(広島県庄原市)であり、全社の売上高の約9割を占める。同工場では自動車の骨格であるフレーム周り部品を中心に、フロント周り、足回り、ドア部品、機能部品など、さまざまな製品を製造している。

中でも、プレスから溶接、アSEMBリーまでの一貫生産により、付加価値の高い製品を製造できるのが強みである。一方の本社工場(広島市西区)では、レーザー加工機をはじめ板金設備を駆使して、船舶部品や橋梁部品、建設機械部品などを製造している。

機械加工から塑性加工へ

同社は1959年に小松一成氏(小松賢二社長の祖父)が小松精工所として創業。当初はろくろ旋盤を使い、真鍮製ノズルなどの製造をしていた。プレス機との出会いは、ある時、近隣の会社でプレス加工の現場を見た創業者がその魅力にとりつかれ、人力で作動するピンクラッチプレスを導入したのが始まりだ。

ただし、本格的にプレス加工を始めたのは、1960年代後半にAIDA製の30トンメカプレス4台を導入してからであり、その頃に機械加工から塑性加工へと業態転換した。1970年代までは、自動車部品、建築部品、工業用シン部品が3分の1ずつを占める売上構成だったが、その後自動車部品が伸び、今日、庄原工場はほぼ自動車部品オンリーの製造工場となっている。



▲ NC1-200トンから150トン7台ロボットライン